特別対談

伝統と未来を紡ぐ

三木市長 仲田一彦

三木の祭り屋台大集合実行委員長 西垣豪起

問 (市)企画政策課 企画政策係

三木の祭り屋台大集合を語る

10月26日㈯に開催する三木の祭り屋台大集合。市内の祭り屋台30基が一堂に集う、10年に一度の貴重な機会で、市制施行70周年を記念して開催します。

ここでは、伝統文化として受け継がれてきた祭りの重要性などを中心に、仲田一彦市長と三木の祭り屋台大集合実行委員会の西垣豪起実行委員長に祭り屋台大集合への思いを語っていただきました。

ふるさとへの愛を育む祭りの意義

仲田市長

祭りというのは、地域のふるさと意識や愛情を育む重要な伝統行事です。祭りを通じて、地域の人々が交流し、協力し合うことは、信頼関係を築くことに繋がります。また、子どもから高齢者まで参加できるため、地域コミュニティを強化する良い機会にもなります。

春祭りでは豊作祈願、秋祭りに関して言えば、五穀豊穣への感謝という、日本の古き良き文化が詰まっています。この意義を地域の皆さんと共有し、深めていくことが重要だと考えています。

西垣委員長(以下、敬称略)

市長がおっしゃるように、秋祭りは五穀豊穣を祝う行事です。私自身、子どもの頃から屋台や獅子舞に憧れを持っていました。各地域の祭りは、地域の誇りと伝統を象徴しています。祭りに対する思いは、住民の間で代々受け継がれてきたものであり、今後も大切にしていきたいですね。

祭り屋台大集合の魅力と挑戦

西垣

祭りの魅力はなんといっても迫力のある祭り屋台です。各町の伝統とこだわりが込められており、本当に見事です。一方で、祭り屋台というのは、各町の宝であることから、非常に近づき難い印象があるのも事実です。祭り屋台大集合では、昨年7月から実行委員会を立ち上げ、各地域の代表者が何度も会議を重ねてきました。その中で、先ほどのようなイメージを払拭するとともに、多くの方により間近で祭り屋台に触れていただけるように、今回の祭り屋台大集合では屋台を担ぐ体験イベントも予定しています。【次頁に募集案内】また、市外に住んでいる方もふるさと納税を通じて体験イベントに参加できます。ぜひ、多くの方に祭りの魅力に触れていただきたいと考えています。

市長

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響でリモートによるコミュニケーションが増えたことなど、人とのふれあいが遠のいた期間がありました。直接話して、触れ合ってこそ人の良さが分かることもあると思います。

今回の祭り屋台大集合には28地区から屋台が集結し、市外からも大勢の来場者が訪れます。たくさんの交流を持ってもらうことで、祭り文化の継承につながればと思います。

未来へつなぐ祭り文化

市長

祭りを未来に継承するためには、地域の方々の愛情と情熱が欠かせません。特に祭り屋台大集合のような大規模なイベントには、多くの人材と協力が必要です。

20年に一度、社殿や神宝を新しくつくり替えることが宮大工の技術伝承にもつながるといわれる伊勢神宮の式年遷宮のように、定期的に祭り屋台大集合を行うことは、祭りの伝統文化の保存にも通ずると考えます。

地域の皆さんと共に、古き良き伝統を大切にしながら、これからも三木市の祭りを盛り上げ、1000年後にも続く祭りにしましょう。

西垣

祭りの継承は地域の発展には欠かせないものです。若い世代の力を借りて、これからの祭りをさらに豊かで魅力的なものにしていきたいと考えています。

地域全体が一丸となって、祭りをより一層輝かせ、未来につなげていきます。

▲「三木の祭り屋台大集合」のポスター。当日集結する30基の屋台写真が並ぶ。

▲PR動画も公開中。右記のQRコードから視聴できます。